

件名	2024年12月、関東視察（八王子市高尾山、相模原市藤野町）
使途	1 調査研究費 2 研修費 5 要請・陳情活動費
金額	合計 82,522 円
期日	令和6年12月19日（木）～令和6年12月23日（月）
場所	東京都八王子市 高尾山 神奈川県相模原市藤野町
目的	登山からの地域づくり 地域通貨（コミュニティ通貨）
参加者	坂本治郎 1名
高尾山 視察の 所感	<p>高尾山は、日本屈指の登山客数を誇り、その魅力は自然豊かな登山道だけでなく、地域全体のまちづくりにも大きく影響を与えています。本報告では、高尾山を視察し、登山とまちづくりの関連性について考察します。八王子市は、高尾山を観光地として活用するため、次のような取り組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高尾山口駅周辺地区都市計画方針の策定（2016年3月） ・高尾山口駅及び参道周辺整備計画の策定 ・高尾山参道周辺地区屋外広告物地域ルール検討 ・高尾まちパーキングシステムの導入と実証実験 ・高尾山は、関東山地の東南に位置し、都心から約50kmの距離にあります。2007年にミシュランガイドで三つ星に指定され、国内外のメディアや外国人から注目を集めています。 <p>1. 高尾山の現状と課題</p> <p>登山客増加に伴う課題：ミシュランガイドの三つ星獲得以降、観光客が急増し、それに伴う交通渋滞、ゴミ問題、自然環境への負荷などが顕著になりました。</p> <p>多様なニーズへの対応：登山客の年齢層や目的が多様化する中、バリアフリー化や新たな観光資源の開発が求められています。</p> <p>地域経済への貢献：高尾山周辺の飲食店や宿泊施設は、観光客の増加によって大きな収益を得ていますが、季節変動が大きく、安定的な経営が課題となっています。</p> <p>2. 高尾山のまちづくり</p> <p>官民連携による取り組み：八王子市は、民間企業や地域住民と連携し、高尾山の観光振興と環境保全を両立させるための様々な取り組みを進めています。</p> <p>観光客誘致：新規観光ルートの開発、イベント開催、多言語対応の強化など、多様な観光客を</p>

	<p>誘致するための施策が実施されています。</p> <p>地域活性化: 地域住民が主体となったまちづくり活動が活発化し、高尾山を拠点とした地域全体の活性化が図られています。</p> <p>持続可能な観光: 環境負荷を軽減し、地域住民の生活との共存を図るための取り組みが重要視されています。</p> <p>3. 登山とまちづくりの関連性</p> <p>経済効果: 登山客の消費は、地域経済の活性化に大きく貢献しています。</p> <p>雇用創出: 観光関連産業の雇用創出につながり、地域全体の雇用状況の改善に寄与しています。</p> <p>地域ブランドの向上: 高尾山は、地域の重要な観光資源であり、地域ブランドの向上に大きく貢献しています。</p> <p>住民意識の高揚: まちづくり活動への住民参加は、地域住民の意識を高め、コミュニティの活性化につながっています。</p>
<p>地域通貨の所感</p>	<p>コミュニティ通貨は日本全国で 1000 ほどの事例があり、その趣旨としては損得勘定ではなく人のつながりを促進するものである。八女市にもまちのコインである『ロマン』が導入されているが、コミュニティの遊びから起こったエネルギーと行政が行う無機質な導入には大きな違いを感じました。</p> <p>東京都八王子市の『桑都ペイ』の事例</p> <p>桑都ペイは、単なるキャッシュレス決済手段にとどまらず、地域経済の活性化、コミュニティの醸成、そして新たな行政サービスの提供という点において、非常に革新的な取り組みであると感じました。八女市民向けにわかりやすく伝えるのであれば『まちのコイン』と『やめペイ』が合体したようなイメージです。ふるさと納税やイベント参加によるポイント付与など、実用性という意味では八女のまちのコインより上だと感じました。</p> <p>地域経済の活性化: 地域内の消費を促進し、中小企業の売上向上に貢献している点が顕著です。特に、プレミアムポイント付与などの施策は、消費者の購買意欲を高め、地域経済の好循環を生み出していると考えられます。</p> <p>コミュニティの醸成: 地域イベントへの参加やボランティア活動への貢献でポイントが獲得できる仕組みは、住民の地域への愛着を高め、コミュニティの活性化に繋がっていると考えられます。</p> <p>行政サービスの革新: 桑都ペイは、行政サービスのデジタル化を推進し、住民の利便性向上に貢献しています。また、データ分析を通じて、地域経済の動向を把握し、より効果的な施策を立案できる可能性も秘めています。</p> <p>一方で、桑都ペイの普及には、いくつかの課題も存在します。</p> <p>普及率の向上: 全ての市民に桑都ペイが行き渡っているわけではなく、更なる普及策が求められます。特に、高齢者や IT に不慣れな層への支援が重要です。</p> <p>加盟店の拡大: より多くの店舗が桑都ペイに対応することで、利用者の利便性が向上します。</p>

今後とも、桑都ペイの成功事例を参考に、我が地域におけるデジタル地域通貨の導入を検討し、地域経済の活性化に貢献していきたいと考えております。

藤野市のコミュニティ通貨の事例

神奈川県相模原市藤野町は古くから著名なアーティストが移り住んではコミュニティが形成されてきたという流れがあり、代表する施設として『藤野芸術の家』といった県営の複合施設（レストラン、宿泊、体験工房、音楽スタジオ、野外キャンプスペース）など力を入れてきた流れがあります。その中でアーティストたちからのコミュニティが起これ、その流れによる移住者も盛んです。その著名なコミュニティ『ゆるゆる』のコミュニティ通貨「ゆる」は、単なる交換手段にとどまらず、地域住民の繋がりを深め、経済活動を活性化させる上で重要な役割を果たしていると感じました。特に、以下の点が印象的でした。

地域通貨の信頼性: コミュニティ通貨『ゆる』はコミュニティリーダーのアート作品との交換価値の担保による信頼の裏付けと遊び心から生まれたものである。

コミュニティの活性化: ゆるを通じて、住民同士の交流が生まれ、地域全体の活気が生まれていることを実感しました。

一方で、コミュニティ通貨の普及には課題も存在します。

制度的な課題: 現在の法制度では、コミュニティ通貨の利用が制限されるケースもあり、制度的な整備にのつとめる必要があるため普及を促進する上で障壁となります。